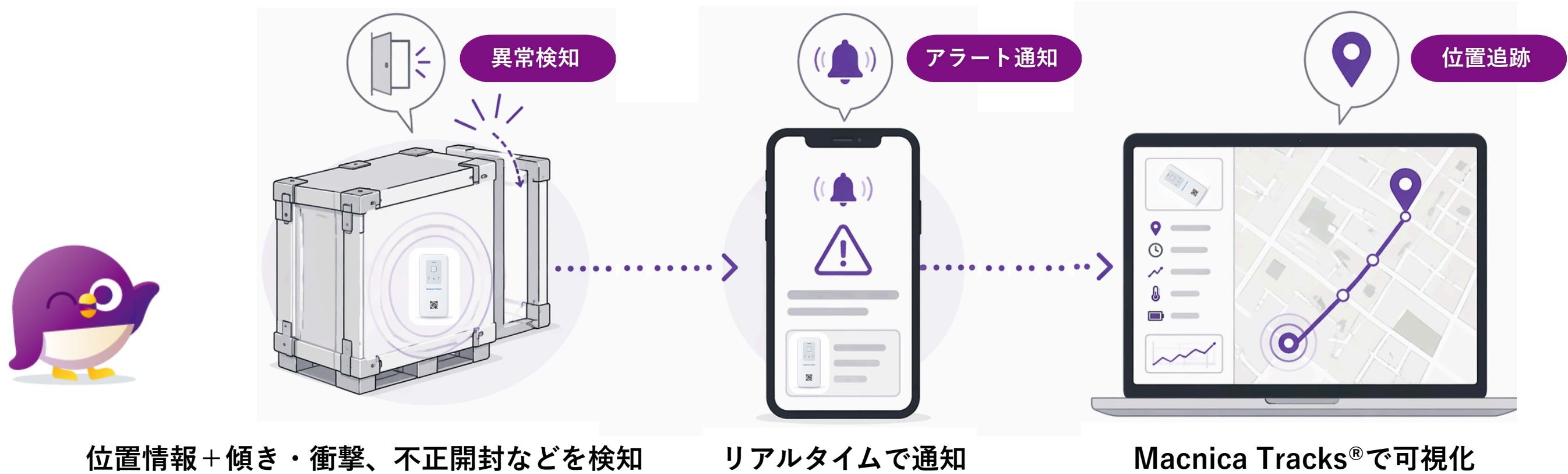




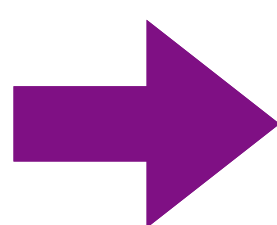
モノの状態監視から盗難後の「追跡」まで 資産を守る Macnica Tracks®



**Macnica Tracks® (マクニカトラックス) は、
モニタリング端末「QTS110」を資産に取り付けるだけで、
異変の検知（傾き、衝撃、不正開封など）、盗難後の追跡を同時に実現します。**

Macnica Tracks®導入前

- × 「物理的阻止」の限界
施錠やカメラを突破された瞬間、すべての対応策がゼロに。
- × 盗難後の追跡手段ゼロ
万が一の紛失・盗難時、今どこにあるかを特定できない。
- × 証跡の限界（カメラ・日報への依存）
死角や虚偽報告のリスクがあり、万が一の際の「真実の究明」が困難。



Macnica Tracks®導入後

- ◎ 異変のリアルタイム検知
不正開封や衝撃を瞬時に検知。
管理者の手元へ即座にアラートを通知。
- ◎ 盗難後も継続追跡が可能
Wi-Fi/GNSS/LTEの3方式測位で、盗難後も屋内・屋外、海外含めた位置を特定可能※。
※一部エリア対応外
- ◎ デジタルデータで状態を完全記録
移動履歴、衝撃、開封実績等の異変を記録。
不透明だった輸送工程が、確かな証跡に。

活用シーン

1

【屋外・夜間】

建設現場の音なき重機盗難を追跡

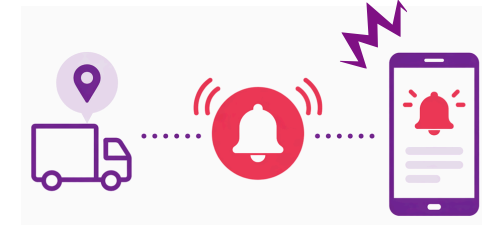
深夜、窃盗団はカメラの死角から侵入し、重機をクレーンで吊り上げトラックでその場を去る。

モニタリング端末「QTS110」を重機に設置すれば、Macnica Tracks®で「発生→追跡→回収」までの一連の対応が可能になります。



①異常の即時通知

モーションセンサーが「傾き」で異常を検知。即座に位置情報とともにアラートを通知。



②リアルタイム追跡

GNSS、Wi-Fi、LTE通信で逃走ルートを図上でリアルタイムに描写。



③「モノ」自体が発信

重機自体が位置を発信し続けるため、潜伏先まで警察を誘導し、回収率の向上に貢献。



活用シーン

2

【屋内・倉庫】

「開けられた瞬間」を見逃さない
内部不正から資産を守る

監視カメラだけでは判別が難しい「不正な開梱」や「中身のすり替え」。QTS110を梱包箱に同梱し、Macnica Tracks®で管理するだけで、デジタルな証拠管理が可能になります。



①照度（光）による検知

箱が開封された際の光を照度センサーが検知。登録先へアラートが通知されます。



②心理的抑止

「箱を開けば記録に残る」仕組みは、不正リスクに対する抑止力として機能。



③後付けの容易さ

特殊な工事は不要。箱に入れる・設置するだけで「モノ起点の警備」が始まります。

工事不要！
すぐに
運用開始

活用シーン

3

【輸送・移設】

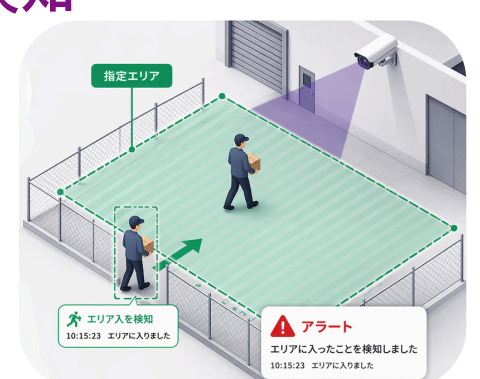
輸送中の重要資産を「データで見える化」

機密情報含むサーバー移設や重要書類の輸送業務の盗難・紛失対策に。移動中のプロセスをデジタルデータで管理、証明が可能に。



①指定エリアへの出入り検知

指定されたエリアの出入りをリアルタイムに検知。異常をいち早く発見。



②衝撃・開封の証拠取得

輸送中に過度な衝撃が加わらなかったか、また箱が開封されていないかを記録。（照度検知）物流品質の証明として機能。



③報告書の自動化

走行履歴や状態ログをそのまま、顧客や監査・コンプライアンス用の報告書に活用。



Macnica Tracks®は、警備会社以外にも物流業、製造業、医療現場など様々なユースケースが想定されます。

※画像はすべてイメージです。